

中一 国語科通信

第2号
平成30年6月25日
国語科1年担当
奥池・日高・狹間



どうきびの金色のつやの愛おしく
指でひと粒もいで食べた

「次の君に繋ぐれ」

日高由里子



一中では読書を推進しています。

国語科でも、連休や長期休暇などに読んだ本の読書案内作成に取り組んでいます。今年度最初は、ゴールドデン・ウィーク読書、略して「ゴールドく」に挑戦。まだ自分の言葉で表現するのが難しく、あらずじの紹介で終わっている人も多いのですが、これから何度も書く機会がありますので、徐々にレベルアップしていただければいいですね。

今回は、中でも我々教科担の目にとまった三作品をここで紹介します。

なお、二年生はすでに春の読書、略して「はるどく」を経験済みなので、今回の「ゴールドく」もなか



はるどく同様今回も、図書館に素敵なコーナーを作ったばかりです！井上先生からは、「次お楽しみにしています」という言葉をいただいています！



さっそくもう貸し出されている本がたくさんありました。皆さんの言葉は影響力大！です。これからどんどん紹介してくださいね！

なかの秀作揃いでした。……というところで、二年生の作品は図書館に展示してもらっています。ぜひ図書館に足を運んでみてくださいね。

『ぼくらの七日間戦争』宗田理

●ぼくも、大人に対して様々な不満をもっているが、実際に大人に反抗するということはできない。しかし、この子どもたちは自分達で協力し合って、大人を借りずに、七日間生活している。この子ども達の行動力は本当にすごいと思う。だからぼくも、この子ども達を見習って、行動力を高めていきたいと思う。

(一組 S君)

『青春は燃えるゴミではありませぬ』 村上しいこ

●今、私たちがこの時間を過ごしていることと、この限られた時間の大切さを教えてくれる本だ。主人公の桃子の心を三十一文字で表している所もすごく良い。自分の本当の気持ちをわかって動き出す桃子の姿と友情をえがき、真つすぐな気持ちにさせてくれる感動がたまっている。自分を見直すことができる、すてきな本だ。

(一組 Oさん)

『天才の勉強術』木原武一

●「天才と言われる人びとの生涯を調べてみると、彼らは意外にも勉強家であった」というひとことがオススメです。天才とはもともと特別な才能などを持っているわけではなく、もともと持っている才能をどれだけ自分で開花させられるかで決まってくるということが分かりました。

(二組 Y君)

おしらせ
七月三日(水曜日)は期末考査です。国語は四日(木曜日)です。準備しておきましょう。先手必勝！

日高由里子 (ひだか・ゆりこ)です。十月に第二子出産の予定があり、皆さんと過ごす期間は短いのですが、一つでも多くのことを伝えられたらと思っています。

ふと「中学一年生の私」を思い返すことがあります。その頃の気持ちを明確に思い出すことはできないのですが(旧皮質時代のことだからかな?)、クラスでも部活でもいろんなことがありました。いいことも、そうでないことも。

でも、三十八歳になった今、それらを全部含めて「青春」って言うんだなああと心から思います。懐かしくて、恥ずかしくて、まぶしくて、甘酸っぱい。

皆さんは今、まさしく青春の真っただ中を生きています。いろんなことがあるはずですよ。でも、どんなことも決して無駄ではありません。力いっぱい生きてください。

ちなみに、私は燃え盛る「朱夏」の終盤にさしかかっていますが、仕事も家庭も子育てもまだまだこれから！あと二十年は朱夏のつもりでいます。

誰でも人生は一度きり。今日一日も。一時間一時間の授業も。——何ごとも、力いっぱいやってみよう。